

1. 概要

- 日時：毎週水曜 13:10～14:30
- 場所：農学部 1 号館 1F 農経特別資料室
- オフィスアワー：毎週金曜日 15:00～16:30
- 担当：有本寛. 1 号館 301-1. Email: arimotoy@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
- 演習のウェブサイト：http://user.ecc.u-tokyo.ac.jp/~arimotoy/semi3_2009/semi3_2009.html

1.1. 演習の内容

- 開発経済学分野の実証研究論文（英文）を毎週 1 本輪読する。報告担当者（2 人一組のチーム）が論文の概要をプレゼンし、その後ディスカッションする。
- 論文は、実際の具体的な開発問題を対象にした最先端かつ世界水準の研究成果のうち、読みやすく、エキサイティングで興味深い（と思われる）ものをこちらで選択し指定する。詳細は下記 4. 参照。

1.2. 目標とねらい

- 開発経済学の近年の論点やトピック，動向に関する知識を得る。
- 論文の読解を通して，問いや仮説のたて方，仮説検証の方法，検証結果の解釈の仕方など，論理的・科学的なものの見方を身につける。
- チームでの協力，PowerPoint の作成，プレゼンテーション，グループディスカッション等，社会人として求められる基礎的なスキルを身につける。

1.3. 注意事項

- 受講者は，最低 1 回の報告が求められる。報告は，論文の abstract, introduction, conclusion（3～5 ページ程度）を読み，論文の概要（背景と問題意識，課題と仮説，主な結果の 3 点）を，パワーポイントを用いて 15 分程度でプレゼンする。これら論文の概要はすべて introduction と conclusion に丁寧に書いてある。論文の分析部分を読んだり，分析方法や結果まで詳しく解説する必要はない（こちらで解説する）。
- なお，論文の分析部分も読みたい学生のために，事前にヒントや解説を記した論文ごとの「読解の手引」を配布する。可能であれば主要な分析結果をまとめた表の解説に挑戦してほしい。また，質問等はオフィスアワーやメール，個別相談で随時受け付ける。
- 報告しない者も事前に論文の該当箇所を読んでくる必要がある。さらに，受講者はディスカッションに積極的に参加し，ゼミに貢献することが期待される。
- 夏学期の「数量経済分析」の履修，または基礎的な統計学と計量経済学の知識（重回帰分析，仮説検定など）があることが望ましい。

1.4. 成績評価

- (1) 報告と PowerPoint の内容, (2) 演習中の貢献度 (参加度), (3) 他参加者へのフィードバック, (4) 出席, に基づいて成績評価する.

2. 報告者の心得

- 報告者は, 事前に担当する課題論文の abstract, introduction, conclusion を熟読すること.
- 熟読に基づき, 別紙「プレゼンの手引」にのっとって, 論文の概要 (背景と問題意識, 課題と仮説, 主な結果) を報告する. プレゼンでは PowerPoint を利用すること. チームは 2 名で構成. 1 名が報告しても, 途中で交代しても, 掛け合い漫才風にやっても構わない. ただし, チーム内で事前に協力し, ディスカッションしておくこと. お互いの疑問点はチーム内で解消し, 少なくとも PowerPoint ファイルとレジュメの内容については全員が同じ水準の理解に到達していて, 当日はチーム内の誰が指名されても通してプレゼンできるようになっていることが望ましい. 報告時間は 30 分. 制限内に伝えるべきことは何かを考えて, 報告内容の優先度に応じたプレゼンを組み立ててくること. 報告者が途中で交代する場合は, 時間の配分調整もしておくこと.
- 当日, 論文の概要を A4 サイズで 2 枚以内にまとめて配布すること (事前に人数分コピーしておくこと. コピーカードが必要な場合は, 有本まで借りに来ること)

3. 参加者の心得

- 参加者も, 事前に課題論文の abstract, introduction, conclusion を熟読すること.
- 積極的に発言し, 議論に貢献することが求められる
- 参加者は, 報告者に対して適切なフィードバックを行うことが期待される.
 - 報告が理解できない場合はその旨伝える (報告者は報告をどう改善すればよいか分かる)
 - 資料やプレゼン自体についても, 良い点, 改善点をフィードバックすること

4. 参考文献

- 黒崎卓・山形辰史 (2003) 『開発経済学 貧困削減へのアプローチ』日本評論社.
- 速水佑次郎 (2000) 『開発経済学』創文社.
- Wydick, Bruce (2008) *Games in Economic Development*, Cambridge University Press.
 - 初歩的なゲーム理論を使って, 開発問題のメカニズムを説明する.
- Banerjess, Abhijit., Roland Benabou., and Dilip Mookherjee (2006), *Understanding Poverty*, Oxford University Press.
 - 開発経済学で議論されている様々なトピックを網羅的に知るのに便利.
- 山本拓 (1995) 『計量経済学』新世社
- 伴金美・跡田直澄・中村二郎 (2006) 『エコノメトリックス』有斐閣
- Wooldridge, Jeffrey M. (2008) *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 4th edition. South-Western.
 - 何はともあれ Wooldridge. 丁寧で分かりやすい. 自習に最適.

5. スケジュールと課題論文

- 第1回 (10月7日). 「ガイダンス」
 - ゼミの内容紹介. MDG. 課題論文の紹介. 担当割り振り.
- 第2回 (10月14日). 「援助は経済成長に有効か？」
 - Easterly, William., Ross Levine, David Roodman (2004) “[Aid, Policies, and Growth: Comment](#)”. *American Economic Review*, 94(3):774-780.
 - 開発援助が経済成長を促進するかという根源的な問題と, これが政治的に利用された過程, 実証研究結果の不完全性について学ぶ.
 - 有本が報告する. 報告フォーマット・内容の確認. 分析結果の見方の解説.
- 第3回 (10月21日). 「情報は力」「ケータイの普及と貧困削減」
 - Svensson, Jakob., and David Yanagizawa (2009) “[Getting Prices Right: The Impact of the Market Information Service in Uganda](#)” *Journal of the European Economic Association*, 7(2-3):435-445.
 - ✧ ラジオによる農産物の市場情報の報道が始まった結果, 農民が有利な庭先販売価格を設定できる交渉力を持つようになったことをウガンダの事例で学ぶ.
 - Jensen, Robert (2007) “[The Digital Divide: Information \(Technology\), Market Performance, and Welfare in the South Indian Fishery Sector](#)”. *Quarterly Journal of Economics*, 122(3):879-924.
 - ✧ 携帯電話という新たな技術と情報インフラ網の普及を人びとがどのように活用し, 貧困緩和に役立てているか, インドの漁師を事例に学ぶ.
 - 有本が報告する. 報告フォーマット・内容の確認. 分析結果の見方の解説.
- 第4回 (10月28日). 「家計調査とは？」
 - 実際に質問票を使ってお互いにインタビューを体験し, その後, 実際に使われている家計調査の質問票を眺める. 貧困マップの作り方.

(以下, 受講生による報告とディスカッション)

- 第5回 (11月4日). 「マイクロファイナンスは貧困削減に効く!？」
 - Banerjee, Abhijit., Esther Duflo, Rachel Glennerster, and Cynthia Kinnan (2009) “[The miracle of microfinance? Evidence from a randomized evaluation](#)” mimeo.
 - マイクロファイナンスの効果 (起業や消費への影響) をランダム化実験と呼ばれる社会実験によって正確に測定した論文である.
- 第6回 (11月11日). 「グローバリゼーションと児童労働」
 - Edmonds, Eric V., Nina Pavcnik, Petia Topalova (2009) “[Child labor and schooling in a globalizing world: some evidence from urban India](#)”. *Journal of the European Economic Association*, 7(2-3):498-507.
 - 児童労働が貿易の自由化によって増えたのか減ったのか, インド都市部の事例を知ると同時に, 児童労働が行われるメカニズムを学ぶ.
- 第7回 (11月18日). 「学校へ行ったら助成金がもらえます」
 - Skoufias, Emmanuel (2006) “[Poverty alleviation and consumption insurance: Evidence from](#)

[PROGRESA in Mexico](#)” *Journal of Socio-Economics* 36:630-649.

- メキシコで実施され、近年広く活用されるようになった条件付き助成金給付（conditional cash transfer）と呼ばれる開発手法とその効果について学ぶ。
- 第8回（11月25日）。「貧困と『魔女狩り』」
 - Miguel, Edward (2005) “[Poverty and Witch Killing](#)”. *Review of Economic Studies*, 72(4):1153-1172.
 - 途上国の貧困の一側面として、家計所得が天候と密接な関係を持つ脆弱性にさらされていること、それがときに悲劇的な結果を招くことをアフリカの事例で学ぶ。
- 第9回（12月2日）。「天候保険」
 - Gine, Xavier, Robert Townsend, and James Vickery (2008) “[Patters of Rainfall Insurance Participation in Rural India](#)” *World Bank Economic Review* 22(3): 539-566.
 - 家計ショックを緩和するためには保険が有効だが、逆選択とモラル・ハザードにより、保険の充実は容易ではない。そこで近年検討されている新しいタイプの「天候保険」の仕組みと、その保険の加入行動について、インドを事例に学ぶ。
- 第10回（12月9日）。「農産物輸入基準の強化が輸出途上国の農民にもたらすもの」
 - Maertens, Miet., and Johna F.M. Swinnen (2009) “[Trade, Standards, and Poverty: Evidence from Senegal](#)” *World Development* 37(1):161-178.
 - 近年、EUは輸入農産物の品質・安全性基準を強化しており、輸出国である途上国の農業者に打撃を与えるおそれが指摘されている。このような輸入規制の強化が途上国農業をどのように再編し、農業者の雇用や所得に影響を及ぼしたのか、セネガルの事例を学ぶ。
- 第11回（12月16日）。「エイズ孤児へのコミュニティ支援と援助の狭間」
 - Thurman, Tonya Renee, Leslie A. Snider, Neil W Boris, Edward Kalisa, Laetitia Nyirazinyoye, Lisanne Brown (2008) “[Barriers to the community support of orphans and vulnerable youth in Rwanda](#)” *Social Science and Medicine* 66:1557-1567.
 - HIV/AIDSの爆発的拡大によるエイズ孤児の増加が予想されている。アフリカなどではエイズ孤児は、親戚などコミュニティ内で扶養されることが多い。そうしたコミュニティ支援とエイズ孤児への援助の間で起きている軋轢をルワンダを事例に学ぶ。
- 第12回（1月6日）。「アフリカの貧困の原因は列強による植民地支配か？」
 - Acemoglu, Daron., Simon Johnson, James A. Robinson (2001) “[The Colonial Origins of Comparative Development: An Empirical Investigation](#)”. *American Economic Review*, 91(5):1369-1401.
 - アフリカの経済発展と制度の関係を、列強の植民地支配という歴史的な視点から定量的に解き明かした大変影響力のある論文である。
- 第13回（1月13日）。「参加型開発」
 - Svensson, Jakob., Martina Björkman (2009) “[Power to the People: Evidence from a Randomized Field Experiment on Community-Based Monitoring in Uganda](#)”. *Quarterly Journal of Economics*, 124(2): 735-769.
 - 途上国における保健や教育問題のひとつは、診療所や学校に医療従事者や先生が来ないことである（absenteeism）。この問題に対して、住民参加による医療体制のモニタリング活動が有効であったウガンダの事例を学ぶ。

- 第 14 回 (1 月 20 日). 「耕作権の強化と農業生産性」
 - Banerjee, Abhijit V., Paul J. Gertler, Maitreesh Ghatak (2002), “[Empowerment and Efficiency: Tenancy Reform in West Bengal](#)”, *Journal of Political of Economy* 110(2):239-280.
- 第 15 回 (1 月 27 日). 総括. 予備日.

その他の課題論文, テーマ

- 「ネリカ米の普及と貧困削減効果」
 - Kijima, Yoko, Keijiro Otsuka, Dick Sserunkuuma (2008) “Assessing the impact of NERICA on income and poverty in central and western Uganda” *Agricultural Economics* 38:327-337.
- 「移民の語学習得と収入」
 - Bleakley, Hoyt and Aimee Chin (2004) “Language skills and earnings: evidence from childhood immigrants” *Review of Economics and Statistics* 86(2): 481-496.
- 「バングラデシュの井戸水ヒ素汚染」
 - Malgosia Madajewicz, Alexander Pfaff, Alexander van Geen, Joseph Graziano, Iftikhar Hussein, Hasina Momotaj, Roksana Sylvi, Habibul Ahsan (2007) “Can information alone change behavior? Response to arsenic contamination of groundwater in Bangladesh”, *Journal of Development Economics* 84(2): 731-754.
- 「農業における耕作面積と反収のトレードオフ」
- 農産物流通, トレーダー
- フェアトレード